

日本鐵鋼協會記事

編輯委員會 (昭和 16 年度第 7 回)

日時 昭和 16 年 10 月 15 日 (水) 自午後 5 時至午後 7 時
 出席者 理事吉川晴十君 田中清治君 鹽澤正一君
 編輯委員 池田正二君 橋本正一君 横山均次君 俵信次君 山口眞申君 志村繁隆君 志村清次郎君 主事金谷三松

協議事項

1. 會誌第 12 號上掲論說原稿の選定
2. 會誌第 11 號上掲抄録及翻譯原稿の選定
3. 會誌第 11 號上掲抄録原稿分擔の委嘱

第 25 回研究部會第 14 回製鋼部會製鋼用原料(平爐)研究會 (第 2 次)

日時 昭和 16 年 10 月 17 日 (金) 自午前 9 時至午後 3 時 30 分
 場所 東京市麴町區霞ヶ關 1 丁目法曹會館
 出席者 (本會役員) 會長 渡邊三郎 副會長 吉川晴十 前會長 河村曉 水谷叔彦 理事 鹽澤正一 常務委員 石原善雄編輯委員 石川薫 横山均次 俵信次 前田六郎 菊池浩介 志村清次郎 (各研究會委員長幹事) 神谷基夫君野田浩君 藤原唯義君 石原善雄君 松山寛慈君 吉川晴十君

(本會推薦委員) 委員長 鷗瀨新五君 幹事 藤村折之君 委員 川上義弘君 宮原信治君 梅津七哉君 澤村宏君 的場幸雄君 嘉村平八君 (工場推薦委員) 根本文次郎君(日鐵八幡), 古川靖海君(日鐵技術部), 近藤道次君(日鐵八幡), 篠原規雄君(日鐵釜石), 大貫富藏君 (日鐵釜石), 間忠誼君(日鐵兼二浦), 志賀芳雄君 (日鐵廣畑), 坂口豊君(日鐵大阪), 穂坂徳四郎君 (日鐵富士), 小池眞一君 (昭和製鋼), 藤田安太郎君 (昭和製鋼), 瀧澤工君(日本鋼管川崎), 深堀佐市君(日本鋼管鶴見), 山口正君(川崎製鐵), 栗田滿義君 (住友製鋼), 小田助男君(住友製鋼), 松浦二郎君(住友製鋼), 宮下俊一君 (神戸製鋼), 長井盛君 (日本製鋼室蘭), 石垣良治君 (大阪造兵), 吉木卓君(大阪造兵), 中野三次君 (陸軍兵器本部), 重富慶君(宇部鐵工), 龜岡勇治君(滿鐵撫順), 佐々木吉備三郎君(日本特殊鋼), 今井克巳君(鐵鋼統制), 米榎健治郎君(川崎製鋼), 石田孝三君(川崎製鋼), 小森富作君(鐵鋼統制), 武林誠一君(吳廠製鋼), 堀田秀次君 (吳廠製鋼), 今永仙太郎君(三菱清津代), 中村大四郎君 (三菱製鋼), 兼松源三君 (三菱長崎製鋼), 三輪時雄君 (大谷製鋼), 伴圭一君(大谷製鋼), 片山博文君 (中山製鋼), 峠仁君(日曹大島), 金澤三郎君 (日曹大島), 安藤鐵男君(吾娣製鋼), 吉村四郎君(日亞製鋼), 山田眞雄君 (日鐵製鋼), 石坂貫一君(内外製鋼), 岩永正信君 (壽大津), 宇野享君(壽大津), 淺野輝君 (大同製鋼), 萩原晴郎君 (東京製鐵), 大成省三君 (東京シャ), 田口由三君 (豐田製鋼), 森村壽昌君(大同製鋼), 神野朝光君 (東京

芝浦足立), 持田浩君(東京芝浦足立), 西田大君(大和製鋼), 諏訪常次郎君(幸田鑄工), 川村重信君(宇部鐵工),

議事 (別記)

日本鐵鋼協會第 26 回講演大會記事

1. 會場

第一會場 東京市神田區一ツ橋 東京商科大学一橋講堂
 第二會場 東京市神田區一ツ橋 帝國教育會館四階大講堂

2. 出席者數

出席申込者總數	實際出席者數	見學者數(實際/申込者數)	
846 名	676名正會員335 准會員 330 臨時會員 8	A 三菱鐵業研究所 61/101	E 鐵道大臣官房研究所 44/71
		B 東京帝國大學工學部附屬綜合試驗所 43/98	F 東京工業大學精密機械研究所 16/33
		C 東京帝國大學航空研究所 56/102	G 早稻田大學鑄物研究所 44/79
		D 理化學研究所 61/129	H 日本鋼管株式會社技術研究所 89/163
		計 414/776	

3. 第 26 回講演大會概況

本年は時局柄會場豫定地の變更や、晚餐會の取止め等の爲め、會員諸君の御豫定に思はぬ御迷惑を及ぼしたことを頗る遺憾としたに拘らず、參加會員約 900 名の多數を得たことは誠に感謝に耐へないところであつた。第 1 日は不幸雨降りだつたが、第 2 日殊に第 3 日の見學の日は少し寒かつたけれども先づ申分なき秋晴れの日に見學場所の郊外の方は一層満足の色が伺はれた。

講演大會は豫定の通り進捗し、第 1 日は定刻第 1 會場では渡邊會長、第 2 會場では吉川副會長大々登壇、一場の挨拶あり開會を宣し次記諸君の司會の下に滞りなく終了を告げた。唯だ第 1 會場にて、第 2 日第 17 番田所芳秋君が病氣の爲め、同第 23 番蜂谷知十雄君が其の筋よりの御注意に據り講演の中止を餘儀なくされたことは遺憾なりしも、時節柄之れも亦不得止事なり。

第 1 日に司會の勞を執られし方

	第 1 會場	第 2 會場
9:10~10:05	渡邊三郎君	吉川晴十君
10:20~11:55	川上義弘君	山田良之助君
1:00~1:55	石田四郎君	田中清治君
2:10~3:35	石原善雄君	池田正二君
3:50~4:45	水谷叔彦君	河村曉君

第 2 日に司會の勞を執られし方

	第 1 會場	第 2 會場
9:10~10:05	鹽澤正一君	藤井寛君
10:20~11:55	志村繁隆君	多賀谷正義君
1:00~1:55	松下長久君	澤村宏君
2:10~3:35	川崎舍恒三君	的場幸雄君
3:50~4:45	渡邊三郎君	吉川晴十君

講演プログラム全部終了後、會員全部第2會場に集合、會長登壇、司會者並に講演者諸君へ厚く謝辭を述べられ、會員一同の熱誠を讃へ、且時局柄又防空演習中の故を以て晚餐會取止めの不得已事情を諒せられんことを述ぶるところあり、終始極めて靜肅に最も效果的に、全講演を了へ盛會裡に散會した。

4. 講演プログラム

日本鐵鋼協會第26回講演大會講演次第

第1日 10月18日(土) 第1會場(商科大學一橋講堂)
9時10分-9時35分

(1) 鐵鑛の浮游選鑛に関する研究第1報
株式會社昭和製鋼所研究所員
工學士 後藤 有一君
〇 大和 一君

9時40分-10時5分
(2) 熔鑛爐に於て吹製し得る鉄鐵成分の限界に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師
工學士 松倉由次郎君

—10分休憩—

10時20分-10時45分
(3) 兼二浦に於ける最近の熔鑛爐作業に就て
日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所
工學士 辻 畑 敬 治君

10時50分-11時15分
(4) 八幡製鐵所に於ける數基の熔鑛爐の吹立に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師
工學士 山 上 秀 雄君

—10分休憩—

11時30分-11時55分
(5) 釜石鐵鑛石の製鍊に就て
日本製鐵株式會社釜石製鐵所技師
工學士 葛 誠 四 郎君

晝 食

1時0分-1時25分
(6) 回轉爐に依る海綿鐵の製造に就て第2報
大同製鋼株式會社技師
工學博士 錦 織 清 治君
〇工學士 淺 野 輝君
東北帝國大學選鑛製鍊研究所
工學士 德 山 忠 臣君
淺野セメント株式會社技師
本 田 義 樹君

1時30分-1時55分
(7) 直接通電による鐵鑛の還元
大阪帝國大學教授
工學博士 藤 井 寛君

—10分休憩—

2時10分-2時35分
(8) 富士製鋼所に於ける冷銑鑛石法に就て
日本製鐵株式會社富士製鋼所技師
穗 坂 德 四 郎君

2時40分-3時5分
(9) ヘツシュ法の實際作業に就て

日本製鐵株式會社釜石製鐵所技師
大 貫 富 藏君

3時10分-3時35分
(10) 固定式鹽基性平爐に於ける特殊熔解法
日本製鋼所室蘭製作所

近 藤 光 治君
—10分休憩—

3時50分-4時15分
(11) 鹽基性平爐に於て平爐滓を使用する精鍊法の作業
實績に就て
日本製鐵株式會社釜石製鐵所技師
工學士 篠 原 楓 雄君

4時20分-4時45分
(12) クロム系不銹鋼削屑利用法に就いて
廣海軍工廠造機部 海軍機關大佐
〇工學博士 藤 井 芳 郎君
工學士 藤 田 忠 男君

第2會場 (帝國教育會館)

9時10分-9時35分
(25) 殘留オーステナイトのX線の定量法に就て
日本特殊鋼株式會社
理學士 下 村 保 光君

9時40分-10時5分
(26) 鹽素法に依る鋼中の非金屬介在物の定量法
第3報 クロムを含む合金鋼
日本特殊鋼株式會社
理學士 森 脇 和 男君

—10分休憩—

10時20分-10時45分
(27) 鐵鋼珪素の比色分析法の研究(幻燈使用)
三菱重工業株式會社橫濱船渠
工學博士 黒 田 正 夫君
〇 藤 盛 雄 吉君
白 井 昇 三君

10時50分-11時15分
(28) 眞空抽出法に依る鐵中の水素定量に際し生成する
メタンの測定に就て
日本特殊鋼株式會社技師
〇工學士 矢 島 忠 和君
原 五 六君

11時30分-11時55分
(29) 炭素螺旋式眞空熔融爐に依る鋼中酸素定量方法の
精密度に就て(幻燈使用)
住友金屬工業株式會社製鋼所研究部
〇理學士 大 中 都 四 郎君
瀬 田 猪 左 雄君

晝 食

1時0分-1時25分
(30) 高速度工具に関する研究 第6報
吳海軍工廠製鋼實驗部海軍技師
工學士 堀 田 秀 次君

1時30分-1時55分

- (31) 低ニッケルクロム鋼製大型鍛造品に現れる白點防止焼鈍方法に就て(幻燈使用)

住友金屬工業株式会社製鋼所

工學士 山本信公君

○工學士 阿部信男君

—10分休憩—

2時10分—2時35分

- (32) 無ニッケル肌焼鋼に関する二三の實驗

神戸製鋼所研究部(幻燈使用)

○工學士 高尾善一郎君

工學士 上田滿正君

2時40分—3時5分

- (33) 焼戻によつて脆化せるニッケルクロム強靱鋼の靜的、動的及び衝撃的試驗結果

三菱重工業株式会社名古屋發動機製作所

○工學士 關口次郎君

矢野勝君

3時10分—3時35分

- (34) シルクロム鋼に関する研究(第1報) $Fe-C-Cr-Si$ 系切斷狀態圖の研究(幻燈使用)

日本特殊鋼管會社

○工學士 山中直道君

佐藤恭次郎君

3時50分—4時15分

- (35) 高温・高壓化學工業用材料としての磷含有1%クロムモリブデン鋼に就て

住友金屬工業株式会社鋼管製造所研究部

大倉幸雄君

4時20分—4時45分

- (36) 電熱用 $Fe-Cr-Al$ 系合金の基礎的研究(幻燈使用)

東京帝國大學教授

工學博士 三島徳七君

東邦産業研究所

○工學士 川勝一郎君

工學士 難波雄一君

第2日 10月19日(日) 第1會場(商科大學一橋講堂)

9時10分—9時35分

- (13) 鹽基性電氣爐製鋼法に於ける粒鐵の使用に就て
株式会社神戸製鋼所技師

滿田十次君

9時40分—10時5分

- (14) 鹽基性電氣爐操業法の基礎的研究 第1報

海軍技術研究所員 海軍造兵少佐

○工學博士 俵信次君

海軍造兵中尉

理學士 安田洋一君

—10分休憩—

10時20分—10時45分

- (15) 鹽基性電氣爐製鋼法の基本的概念に就て

日本製鐵株式会社八幡製鐵所理事

工學博士 小平勇君

10時50分—11時15分

- (16) 珪石煉瓦用原料珪石に就て

黒崎窯業株式会社研究員

理學士 高良義郎君

—10分休憩—

11時30分—11時55分

- (17) 平爐天井用珪石煉瓦の試驗結果の一二に就て

(珪石煉瓦の作業鑑定法に就て)

日本製鐵株式会社八幡製鐵所理事

理學博士 田所芳秋君

(病氣缺席)

晝食

1時0分—1時25分

- (18) 鑄鐵中の各種成分元素が黒鉛の析出に及ぼす影響及び機構(特に酸素の影響に就て)

理化學研究所

理學士 眞殿統君

1時30分—1時55分

- (19) 含銅鑄鐵の研究(幻燈使用)

三菱重工業株式会社横濱船渠

工學博士 黒田正夫君

工學士 石黒一彦君

○大西正次君

—10分休憩—

2時10分—2時35分

- (20) 鑄鐵の凝固過程中に放出するガスに就て(幻燈使用)

横須賀海軍工廠造機部

工學博士 石川薫君

○工學士 山下章君

2時40分—3時5分

- (21) 鑄物砂の基礎的研究(幻燈使用)

東京工業大學教授

理學博士 河上益夫君

3時10分—3時35分

- (22) ガソリン代用としてのコークス爐ガスに就て

日本製鐵株式会社八幡製鐵所技師

工學士 橋勸君

—10分休憩—

3時50分—4時15分

- (23) 熔滓式ガス發生爐の研究

日亞製鋼株式会社技師長

蜂谷知十雄君

(其の筋の注意に依り取止め)

4時20分—4時45分

- (24) コークスの燃焼率に就て

大阪帝國大學教授

工學博士 藤井寛君

第2會場(帝國教育會館)

9時10分—9時35分

- (37) 鋼に含まれる珪素に関する研究(11) フェライト

に及ぼす珪素の影響に就て

日本製鋼所室蘭製作所

太田雞一君

9時40分—10時5分

- (38) 酸素及び銅を含む鋼の高溫脆性に就て
住友金屬工業株式會社鋼管製造所研究部員
工學士 故 高 寺 健 吉君
〇 松 浦 二 郎君
桐 野 利 定君

—10分休憩—

10時20分—10時45分

- (39) 炭素鋼の酸化、脱炭防止法に就て
京都帝國大學教授
工學博士 澤 村 宏君
京都帝國大學研究員
〇 本 田 卓 郎君

10時50分—11時15分

- (40) 鋼の反滓色の工業的應用例
日産自動車株式會社研究部
工學士 吉 城 肇 蔚君

—10分休憩—

11時30分—11時55分

- (41) 高溫度に於ける鐵・硫黃・水素間の平衡に就て
東北帝國大學教授
工學博士 的 場 幸 雄君
〇 工學士 鶴 瀨 達 二君
助教授

晝 食

1時0分—1時25分

- (42) オーステナイド結晶粒の大きさを考へに入れた鋼の熱處理に就て
住友金屬工業株式會社製鋼所研究部員
山下 政 明君

1時30分—1時55分

- (43) 鐵鋼中に於ける諸元素の擴散に就て 第1報
(幻燈使用)
大阪帝國大學助教授
工學士 上 村 勝 二君

—10分休憩—

2時10分—2時35分

- (44) 熱處理による軌條鋼の材質改善に關する研究
滿鐵鐵道技術研究所
工學士 原 良 彦君

2時40分—3時5分

- (45) 調質壓延の製品に及ぼす影響に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師
工學士 藤 木 俊 三君

3時10分—3時35分

- (46) 深絞用美裝鋼板の調質に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所
工學士 太 幸 三 郎君

—10分休憩—

3時50分—4時15分

- (47) 鍛鍊程度の表し方に關する一考察
株式會社神戶製鋼所技師
工學士 梅 澤 光 三 郎君

4時20分—4時45分

- (48) 強靱クロム鋼の研究第1報
株式會社神戶製鋼所
工學博士 川 上 義 弘君
〇 工學士 市 來 崎 進君

電氣製鋼研究會

1. 幹事會

- 日 時 昭和16年10月19日自午後5時至午後7時
- 場 所 東京市神田區一橋帝國教育會館
- 出席者 委員長 川崎倉恒三君
委員長補佐 林 達夫君
第1小委員會幹事 神谷 基夫君 野田 浩君
第2小委員會幹事 藤原 唯義君
第3小委員會幹事 石原 善雄君
第4小委員會幹事 吉川 晴十君
主事 金谷 三松

議事 1. 研究報告取纏め締切期限を明年4月大會前とすること
に關する打合せの件

2. 第1小委員會(第27次)

- 日 時 昭和16年10月21日(火) 自午前9時30分至午後4時
- 場 所 本會事務所
- 出席者 (幹事)神谷基夫君 野田 浩君 (委員)今泉貫治君代理
稻垣豐吉君 堀切政康君代理越智通喜男君 高田安雄君
吉村英文君 牛尾眞三君 高良 淳君代理武田正基君及
植田勇二君 (主事)金谷三松

議事 (1)「リアクトル」の件 (2)電極把持器及「エコノマイザ
ー」の件 (3)電極原料問題 (4)優良耐火物の件 (5)高
周波電氣爐の標準型の件 (6)高周波電氣爐「ライニン
グ」に關する座談會を開催すること。昭和16年11月
24日(月)午後1時より實施のこととする。(7)次回は11
月25日午前9時30分開催の豫定。

3. 第3小委員會(第11次)

- 日 時 昭和16年10月30日(木) 自午前9時30分至午後2時20分
- 出席者 (幹事)松山寛慈君, (委員)石川薫君, 大垣梅雄君, 高橋
隆君代理多賀谷正雄君, 笹部誠君代理石垣喜八郎君, 神
邊武雄君代理小野左右吉君, 野崎榮君, 小島豐榮君, 大
澤隆吉君, 田村勝人君, 藪内周三郎君, 荒木彬君代理菅
田角夫君 (松山寛慈君同伴者)岩本行雄君, 中原省三君
(主事)金谷三松

議事 III 操業法第35~39項及び第32項の再審議

日本鑄物協會聯合鋼鑄物研究會

(1) 第1, 第3小委員會(第1次)

- 日 時 昭和16年10月28日(火) 自午後1時至午後7時
- 場 所 神田區一橋帝國教育會館4階
- 出席者 (委員長) 石川登喜治君

(次第不順〇印幹事)

(第1小委員會委員)〇久富茂直君, 横山勝任君, 小林子
之輔君, 米樹健治郎君, (第3小委員會委員)〇石川薫君
〇松浦春吉君, 米樹健治郎君 田村勝人君 田口清三君
(同伴原田梅治君), 瀧川廉雄君代理中村文夫君, 馬場狂

介君、吉岡佐一郎君、吉田正夫君、中野正義君 勝間春三君、百合壽馬君、樋口重友君、齋藤豊三君、齋藤彌平君、小畑菊次郎君、岡田知彦君
(本會役員) 河村 曉君 (主事) 金谷三松

議 事 (1) 機械構造用鑄鋼品規格案の検討

日本鐵鋼協會關西支部記事

第 13 回 例 會

日 時 昭和 16 年 9 月 28 日(日)

A 班 集合時刻及場所 午前 10 時 30 分 播丹鐵道小野驛前
參加人員 68名 見學場所 山陽利器製造株式會社利器工場及附近工場

見學順序 午前 10 時 30 分～午前 11 時 山陽利器(利器工場)見學、見學終了後徒歩にて小野町同社可鍛鐵工場(徒歩約 15 分)に至り同社にて晝食
午後 1 時～3 時 同社可鍛鐵工場並に同小野町刃物製造の家内工業並に算盤製造組合の共同工場見學 解散
(兵庫縣美婁郡三木町三木重工業株式會社は隨意見學とせり)。

B 班 集合時刻及場所 午前 10 時 30 分 神有電車三木線惠美須停留所前

參加人員 45 名 見學場所 三木重工業株式會社
見學順序 午前中 三木重工業株式會社工場見學、終了後同社にて晝食、同所よりバス

又は輕便鐵道にて午後 2 時小野町着

午後 2 時より A 班の見學順序により山陽利器及び附近工場を見學 午後 5 時終了解散

商 議 員 會 (第 16 回)

日 時 昭和 16 年 10 月 6 日 午後 6 時開會

場 所 中央電氣俱樂部

出席者 (五十音順)

川上義弘君、川端駿吾君、勝間春三君、絹川武良司君、杉本正邦君、高橋 清君、多賀谷正義君、藤井 寛君、樹田定司君、室井嘉治馬君、林 康作君(森崎君代)、山田貞雄君、吉弘良夫君、横山武人君

- 議 事 (1) 次回例會は 11 月 22 日(土)大阪製鋼(樹田君より交渉)、淀川製鋼(藤井君より交渉)を見學の豫定とし、大阪及尼崎幹事にて準備をなすこと。
(2) 關西平爐技術懇談會の經過報告
意見交換あり。既に各社の承諾を得代表者の決定を見たる故 10 月下旬中山製鋼所當番にて第 1 回懇談會開催に決す。尙當支部推薦の會員として阪大藤井、多賀谷兩君を推すこととなれり。
(3) 役員會出席者に旅費を支給の件
調査の上他學會の例に倣ふことに決せり。
(4) 支部長より本部の希望として東京に於ける毎月の講演會に當支部より講師 2 名位を斡旋せられたしとの希望意見あり。

寄贈圖書紹介

日本鑄業會編纂 鑄 業 便 覽

略B列 6 番 1548 頁 價 10 圓 千 内地 40 錢 其他 70 錢
昭和 16 年 10 月 東京市京橋區銀座西 8 の 7 日本鑄業會發行
日本鑄業會編纂に係る同書は鑄業即ち鑄山並に冶金工業全般に互る學術技術兩方面の所有事項を蒐集編纂したもので、その衝に當れる各委員は學界並に業界の専門者宿新鋭を網羅してゐる。その權威ある記事内容に至つては内外に未だ曾てその比を見ないものなることは多言を要しない。御寄贈に對し謝意を表す。

川口寅之助譯 高 速 度 鋼

A 列 5 番 184 頁 價 2 圓 昭和 16 年 6 月 東京市日本橋區兜町 2 の 17 科學主義工業社發行
名著「Grossmann, M. A. and E. C. Bain: High-Speed Steel」を不二越鋼材・研究所の川口氏が翻譯された。名譯を通じて容易に名著に觸れ得ることは喜びである。御寄贈を厚く謝す。

建築土木資料集覽刊行會編纂 建築土木資料集覽

昭和 16 年版 A 列 4 番 約 400 頁 昭和 16 年 8 月
東京市京橋區銀座西 3 の 1 の 2 建築土木資料集覽刊行會發行
立派な資料集覽の出來たことに敬意を表し、御寄贈を謝す。

材料研究會編輯 材料文獻集 昭和 15 年度

A 列 4 番 75 頁 價 2 圓
昭和 16 年 9 月 東京市小石川區諏訪町 55 常盤書房發行
材料文獻集の續卷である。御寄贈に對し謝意を表すと共に同會の發展を祈つて止まない。

谷 山 巖 特殊鋼熔製法

略A列 5 番 453 頁 價 5 圓 80 錢
昭和 16 年 10 月 東京市神田區錦町 2 の 9 修教社書院發行
會て名著「鐵及び鋼鑄物」を公にせられた谷山氏は今般「特殊鋼熔製法」を著された。種々有益な事項を含む同書は學界業界を裨益すること多大なものあらう。御寄贈を厚く謝す。